

景岳全書卷一 入集

佞忠錄 上

一、明理。

[原文]

萬事不能外乎理，而医之於理為尤切。

散之則理為万象，会之則理歸一心。

夫医者一心也，病者万象也。

考万病之多，則医道言誠難，然而万病之病，不過各得一病耳。

{読み方}

バンジ リ ハズ アツ シカ イ リ
万事ハ 理ニ 外レルコト 能ワズ、 而シテ 医ノ 理ニ
オ モト セツ タ コレ ガン スタフ リ
於ケルヤ 尤モ切 為リ。 之ヲ 散スレバ 則チ 理
バンショク タ コレ カイ スタフ リ イクシ キ
ハ 万象 為リ。 之ヲ 会スレバ 則チ 理ハ 一心ニ 帰ス。

ソ イ イクシ ヤマイ バンショク
夫レ 医ハ 一心ナリ、 病ハ 万象ナリ。

マンビョウ オ アツ' スタフ イドウ マコ カタ
万病ノ 多キヲ 考~~ル~~レバ 則チ 医道ハ 言誠ニ 難シ。

シカ マンビョウ ヤマイ ソレ
然シテ 万病ノ 病ハ、 各レ 一病ヲ 得タルニ 過キ~~ル~~

~~サニ~~

〔解釈〕

(しんらばん(の) てんちかん じぶつ げん(の))
 森羅万象(天地間の事物・現象)はすべて
 (しぜん せつり はず)
 自然の摂理に外れることはないものであり、
 (にんげん せつり し (た せい)
 人間はその摂理をよく知り、それに従って生
 (かつ
 活すべきであるが、(いどう (いやく いしゆつ) とく
 医道(医学・医術)は特
 (せつり わき たいせつ
 に摂理をよく辨まえることが大切である。

この摂理というものは(ひろく)とれば(しぜんかい)
 自然界や(うちゅう うんこう へんか)
 宇宙の運行や変化であるし、(せま)
 狭くとれば(じこ しんり しゆ しよう)
 自己の心理・思考・思想である。

(いどう いし じゆ したい)
 医道は医師の心次第である。(じゆ しんり し
 (しゆ しよう そうかつ たい やまい ばん(の))
 考・思想を総括するもの。) それに対して病は万象
 (かず おお へんか おお)
 (数が多くて、変化が多い)である。

(やまい ざつた へんげん じゆ)
 病が雑多で変幻極まりないということ(かんが)
 を考えれば(いどう じゆ じんなん おも)
 医道というものは(おも) 実に困難であると思われ
 (かんが かんが) るが、考え方をかえてみれば、(ふく じゆ)
 どのように複雑
 (やまい じんぽん)
 な病であっても、その病の根本はそれぞれ
 (も) にひとつの病を得て、それが(はつ せん)
 発展したものであるに(す)
 過ぎな(す) 事。

〔原文〕

譬之北極者医之一心也、万星者病之万象也。

欲以北極、而対万星、則不勝。其対以北極、而

対一星、則自有一線之直、彼此相照、何得有差。

故医之臨証、必其期以我之一心、洞病者之本。

以我之一、対彼之一、既得一^眞、万疑俱釈、

豈不甚易。一也者理而已。

〔読み方〕

外 譬 エレバ^{ホツキョク} 北極ハ^イ 医ノ^{イツシン} 一心ナリ、^{バンセ} 万星ハ^{ヤマイ} 病ノ^{バンショウ} 万象

ナリ。北極ヲ^{ホツキョク} レハツテ^{バンセ} 万星ニ^ツ 対セシメント^ツ 欲スレバ^{ホツ}

ナラ^{ホツキョク} ズ。其ノ^モ 対スルニ^{イツセ} 北極ヲ^{イツセ} レハツテ^{イツセ} 一星ニ

対スレバ、^{イツセ} 則チ^{イツセ} 自ラ^{イツセ} 一線ノ^{イツセ} 直有リ、^{イツセ} 彼此ヲ^{イツセ} 相照

スルニ^{ナン} 何ゾ^{ツガ} 差ウコトノ^ア 有リ得ニヤ。^エ

故ニ^{イツ} 医ノ^{イツ} 証ニ^{イツ} 臨ムニ^{カツラ} 必ズ^{ワレ} 我ノ^{イツシン} 一心ヲ^モ レハツテ^{ビョウシヤ} 病者

ノ^ヒ 一ツノ^ヒ 本ヲ^ヒ 洞ランコトヲ^キ 期スバシ。我ノ^{ワレ} 一ヲ^{イツ} レハ

ツテ、^{クル} 彼ノ^{イツ} 一ニ^ツ 対シ、^{ステ} 既ニ^{ヒト} 一ツノ^{コト} 眞ヲ^エ 得タレバ、^{バンギ} 万疑

ヲ^ト 俱ニ^ツ 釈スルニ^ナ 豈ンゾ^{ハハ} 甚々^{ヤス} 易キトセザルモ^ナ ノナ

〔解説〕

宇宙の星に譬えれば、北極星は医の心であり、他の多くの星すなわち万星は病の万象のようなものである。北極星一星と万星を一度に相対させようとするのはとても無理なことである。だが、北極星と他の一つの星とを相対させるのであれば、両者の間には自ら一本の直線を引くことができ、この両者を相対比較することには、何の間違ひも起らぬものである。

だから、医も病証に対処する際には必ず、医師の一心で病者の一つの根源の病証を把握するように努めるべきである。医師と病者が一対一で相対し、病の根源を把握したら、どのように複雑でわけのわからないような病であっても、それらの病証を理解するのに、それほど困難なことはないであろうか？ ここで〈我之一〉といっている一の意味は、理すなわち医道の学理であり、摂理のことである。